

社会に開かれた教育過程の実現

技術革新が急速に進み、グローバル化やIT化など予測困難な変化が次々とやって来る時代。

そんな時代が到来している中、子どもたちには自ら課題を見つけ、学び、考え、判断して行動し、よりよい社会や人生を切り開いていく力が求められます。知識だけでなく、子どもたちがそのような「生きる力」を育むため、学習指導要領が約10年ぶりに改訂され、2020年度より小学校から順次実施されます。

具体的には、「何ができるようになるのか」というよりも、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力

など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」を総合的にバランスよく育てていくことを目指し、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」という視点からの授業改善が重要視されるようになります。

こういった学びを実現するため、文部科学省はコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)導入を全国の学校に促し、地域と学校の連携・協働体制の構築を推進しています。

木山中 冬のチャレンジプロジェクト

第1弾 ごみ拾いチャレンジ



生徒、地域の人、先生が一緒になってごみ拾いをしました。ごみ拾いをしながら、地域の人とも交流を深め、また、自分たちの住む町についてあらためて知る機会となりました。

第2弾 民生委員さんと一緒に



校区の民生委員さんと一緒に、高齢者のお家に歳末助け合い見舞い品を持って行き、交流しました。福祉の考えを、少しでも垣間見る機会になりました。

地域に飛び込み学んでもらうため、学校の休みを利用したチャレンジプロジェクトを生徒や地域の人と一緒に実施しています。

キャリアを考えるきっかけづくりとして、普段接することのない人と接し、したことのないことをすることで、町と自分自身を見つめ直すことを目標にしています。

地域で育つ コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールは、端的に言えば「学校だけでなく地域社会で子どもを育てる」仕組み。

もちろん学校運営や教育方針などは、各学校の校長により決定され、先生たちがこれらを実現するべく動いていますが、授業として当然に実施しなければならない教育カリキュラムを抱えながら、新しい学習指導要領の目標とする「生きる力」を育むには学校生活の限られた時間内だけでは困難です。

そこで、地域の人たちが学校と協働し、知識以外の「生きる力」を育てていくコミュニティ・スクールという考え方が必要となります。

井下さんが魅力を感じたキャリア教育も、コミュニティ・スクール活動の一環です。地域のさまざまな人と触れ合ったり、活動をすることで、自分のやりたいことを選んだり、これからの人生を切り開いていくための課題を見つめ直す機会を設け、主体的に考えたり、行動する力を養います。

コミュニティ・スクール導入の促進が求められる一方、町では、これを推進するコーディネーターの配置が進められていますが、中学生というデリケートな年齢で地域と繋がりを持たせるのは難しいこと。

井下さんはそのような観点から、中学校に重きを置き、学校・地域と協力してキャリア教育を実施、コミュニティ・スクールのカタチづくりをお手伝いしています。